

## 今日の一品

## ＼ イソヒヨドリ ／



最近、立川駅グランディオの屋上あたりから、とても美しい鳥の鳴き声が聞こえてくるようになりました。1年くらい前は日航ホテルのあたりで鳴いていましたが、立川駅の中心までやって来ました。

鳴き声の主は、この鳥、イソヒヨドリ *Monticola solitarius* です。属名の *Monticola*, は「山に生息する」、種小名の *solitarius* は「単独性の鳥」という意味です。和名のイソ(磯)と言っても立川駅は磯ではない、ヒヨドリ(鶉酷い漢字だ)と言ってもヒヨドリ(ヒヨドリ科 世界に日本と台湾にしかない貴重な鳥です。日本人にはうるさいっていわれているけど...)とは全然違う仲間の鳥です。

ヒタキ科イソヒヨドリ属の鳥で、英名は Blue Rock Thrush です。Thrush はツグミのことですから、岩場にいる青いツグミということです。和名にイソとある通り、日本全国の海岸の岩場で、1年中見られる(留鳥)で体長が 20 cm ほどの鳥です。

ヒヨドリ科のヒヨドリが日本にしかないのに対し、ヒタキ科のイソヒヨドリは日本からユーラシア大陸を西に向かってなんとスペインあたりまで広く分布しています。アラビア半島やアフリカの北部にもいます。いわば成功した鳥です。和名の磯と英名の Rock との違いは、ユーラシア大陸では標高 2000~4000, の高山に分布していることによるものでしょう。ユーラシア大陸の高山の岩場が、日本では磯の断崖絶壁に相当したと考えられます。そういった環境に生息していたイソヒヨドリですが、最近は海沿いから都市部にまで分布を広げてきています。立川駅周辺のビルが、彼ら本来の生息場所である断崖や岩場に近いということなのでしょう。

海辺での餌は、昆虫やフナムシなどの動物が中心ですが、トカゲなどちょっと大きめの動物も食べます。立川駅周辺では、飲食店から出るゴミに集まるゴキブリやハエが貴重な餌になることでしょう。ちょっと意外なのは、ツバメの巣を襲って雛を食べたり、時にはネズミやヘビの仔を捕食したりという報告があることです。かわいい顔と美しい鳴き声をしています。餌に関してはけっこう激しい欲求があるようです。

この鳥の子育てはちょっと変わっています。一夫一妻制(時には一夫二妻制)で年に1~2回繁殖を行います。雌は卵を5つほど産みますが、抱卵は雌だけが行います。雛への給餌は雌雄で行いますが巣立った後の雛については、雄と雌は雛をほぼ半分ずつ担当する「雛分け」がみられることがあります。そうすると、自分の担当している雛でなければ餌をあげませんし、時には相方が担当している雛が餌をねだってくるとその雛を威嚇することもあります。

自分の DNA をもっている子どもなのに、「なんて冷たい!」と思ってしまいます。イソヒヨドリなりの DNA の残し方なのでしょうが、この戦略のメリットはいったい何だと思いませんか?



左側の派手な雄に対して、右側は灰色がベースの一見地味な雌。でもよく見ると鱗模様が美しい。

※すべて立高周辺で撮影した写真です